

# 重富海岸自然ふれあい館なぎさミュージアム

実施者名：NPO 法人くすの木自然館

事業名：「海のユニバーサル体験学習」連携強化事業

実施期間：2024年6月29日（水）～2025年3月31日（火）



## 【事業の内容・目的】

- 障害があるという理由で、海に来られなかった人やその家族が気軽に海に来られることで「海」を身近に感じ、親しみをもってもらうことを通じて、海を保全したいと思える人を増やすことを目的とした。
- 昨年度構築した「環境教育の要素を取り入れたユニバーサルな体験プログラム」を離島にも普及させる。
- 離島でも、どんな人も体験できる海のプログラムが構築されることで地元の海を親しむ機会ができ、海岸の保全を意識してもらう。
- ユニバーサルな体験活動を行う「意味」や「意義」を理解した人が、重富以外の海岸に育つことで、将来的にユニバーサルな体験活動から海の学びについて考える地域の拠点が増えていくきっかけとなる。

## 活動の様子

### 1. 海のユニバーサル体験活動連携システム構築

【開催日時】①2024年6月30日（日）

②2024年10月31日（木）

【開催場所】①【ne-】 Plant-based Cafe & Act

②安房公民館

【参加者数】① 16人 ② 12人

【活動内容・目的】

- どんな人でも海の学びに繋がる体験を提供することができる「ユニバーサルな海の学び」の拠点を増やす。



海のユニバーサル体験活動連携システム構築では、ユニバーサルな体験活動を行う「意味」や「意義」を理解した人が、重富以外の海岸に育つことで、将来的にユニバーサルな体験活動から海の学びについて考える地域の拠点が増えていくことを目指した。今回は、世界遺産の島としての「屋久島」でユニバーサルビーチを開催することとした。

屋久島でメインとなって動く人たちとの趣旨、目的の共有や、開催場所の事前調査、サポーターとして関わってくれる方たちと事前の顔合わせなどを実施し体験会本番までに準備を重ねた。

また、体験会実施後は今回のサポーターやボランティアとして参加してくださった方々と体験会の振り返りや反省、次回へ繋げるための意見交換会も実施し屋久島でのシステム構築を続けている。

## 2. 海のユニバーサル体験活動説明会

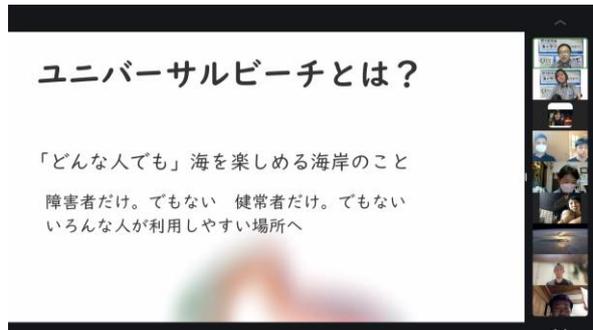
【開催日時】①2024年7月14日(日) 10:00 ~ 12:00 (重富)  
②2024年7月24日(水) 19:30 ~ 21:00 (屋久島)

【開催場所】①重富海岸自然ふれあい館なぎさミュージアム  
②オンライン (zoom)

【参加者数】① 9人 ② 31人

【活動内容・目的】

- 海のユニバーサル体験を行うために、必要な考え方、スキル、実施する目的を共有する
- 昨年度構築した、「環境教育の要素を取り入れたユニバーサルな体験活動プログラム」を離島にも普及させる。
- 「利用」と「保全」の考え方につなげた「どんな人」でもできる体験活動を知ってもらう



海のユニバーサル体験活動説明会では、障害などが理由で海に行くことを諦めている人たちがいる現実を伝え、ユニバーサルビーチの取り組みを普及することで、「誰もが」海を楽しみ親しめる方法があることを知ってもらうきっかけとなった。また、離島でユニバーサルな体験活動ができるシステムを構築するための第一歩とした。離島では日常の一部のように「海」が近いからこそ、まずは、一緒にサポートをする人たちがユニバーサルな視点をもちつつ「利用」と「保全」を考えた海の体験活動を考える場に繋がった。

### 3. 海のユニバーサル活動体験会 (重富)

【開催日時】 ①2024年8月10日(土)

②2024年8月11日(日)

③2024年8月12日(月)

④2024年9月14日(土)

⑤2024年9月16日(月)

【開催場所】 重富海岸

【参加者数】 ①15名 ②8名 ③5名 ④10名 ⑤11名

【活動内容・目的】

- 海の体験活動をユニバーサルデザイン化するための考え方や基礎を学んだ人々が中心となり、障害者と障害児とその家族向けに、海の学びに精通する海辺の体験活動を提供する。
- 障害者を家族に持つ人や実際に海で体験を行うことに抵抗を抱えている人々に、海に入る機会を提供することで、海に親しみを持ってもらい、海の保全活動に対する意識を啓発することを目的とする。



※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



昨年に続き、「誰もが」海を楽しみ、海の学びを感じるユニバーサルビーチを開催。今年、2回目の参加者は「ここに来れば一人でも大丈夫」と一人で体験に来られた。夏前から「海に入りたい!」と楽しみにまわって来てくれた人生で初めて海に入った小児脳性麻痺の青年は「海サイコー!」と入っているのが印象的だった。また、身体が海に浮く感覚や、陸上へ上がった際に体が重く感じる感覚、体の周りを小魚が泳ぎ飛び跳ねる景色など、海に入らなければ気が付かない体験をすることで、海の楽しさや親しみに繋げていくことができた。





体験者がいなかった日に合わせて、サポーターとともに念入りに道具の不具合や破損などがないかの点検を実施した。海水での腐食箇所などを確認することで体験者の安全にも繋がった。また、サポーター同士で、道具の点検を通じた交流をすることで体験時の姿勢や、海での体験・学びをもっとより良いものにすることができないかを考える時間になっていた。

サポーターも「この活動に参加すると、頻繁に海に来ることができる。泳ぐことができる。」と話しており、体験参加者だけでなく、サポーターも海を身近に感じ、「海の学び」につながる時間となっていた。



前日の活動で、丁寧な整地を行ったことにより、翌日にはしっかりとビーチマット（車イスの通り道）を設置することができた。

整地や道具に整備は、大変で地味な作業に思えるが、事前にしっかりと整えることで、誰もがより安全に楽しく海を親しむ場に繋がっている。



初めて気管切開をされた方と共に、ユニバーサルな海の体験を行うことができた。この方は、初日の体験者の見学にきていたことがきっかけで、見学前は「見るだけで…」と話していたが、そのうちに、自身の車椅子でビーチマット上を波打ち際まで降りてきていたのが印象的だった。見学をきっかけに、「私でも入れますか？」という相談から、重富ユニバーサルビーチとして初となる挑戦が始まった。気管切開の方の体験を「どうやったらできるか？」と模索した。

先駆者でもある、須磨ユニバーサルビーチプロジェクトや、気管切開を管理できる臨床工学技士の方などの協力も得て、入念な準備を行い、この日、人生初めての海を体験することができた。

今回の重富海岸での体験会では、初めての体験者や昨年に続き体験に来てくれた方などの活動がなければ海に来ることがむずかしかった方たちが、ユニバーサルビーチを通して海を感じ、楽しみ、そして「また来年」と言って帰っていた姿がとても印象的だった。この活動を通して、海を楽しむことを諦めていた人たちが、「海を知る → 好きになる → また来たいと思う」に繋がっていることを実感した。

## 【参加者の声】

- 回答内容A いつも諦めている、ヒップを通して感じる砂浜の音と感覚、海、海の中の砂、魚がジャンプ、見える景色、視界、視線、鳥、季節を『自然』を【自然体】で感じられた。  
大好きな海に入ると、浮くと、障がいも、性別や年齢、とにかくなにもかも、関係なく自然を、海を、同じことを楽しめた。
- 回答内容B 海を感じられたこと。海は温かいと思った。
- 回答内容C 幼少時代に海に入って以来、海に入ることはなく行っても見ていることしかできなかった。今回、海に入ることができて本当に嬉しく楽しかった。
- 回答内容D 海はなくてはならないから綺麗に使いたいと感じた。
- 回答内容E 海をきれいにしたい仲間がたくさんいたことがよかった。

### 3. 海のユニバーサル活動体験会 （屋久島）

【開催日時】①2024年8月20日（火）

②2024年9月7日（土）

【開催場所】春田浜海水浴場、梶川漁港

【参加者数】①35人 ②34人

【活動内容・目的】

- 海の体験活動をユニバーサルデザイン化するための考え方や基礎を学んだ人々が中心となり、障害者と障害児とその家族向けに、海の学びに精通する海辺の体験活動を提供する。
- 障害者を家族に持つ人や実際に海で体験を行うことに抵抗を抱えている人々に、海に入る機会を提供することで、海に親しみを持ってもらい、海の保全活動に対する意識を啓発することを目的とする。



重富海岸以外で初の開催となる、屋久島でのユニバーサルビーチでは地元の福祉作業所の利用者が体験へ来た。体験者の中には、昔は海が家の目の前で毎日泳いでいたが、年齢や後天的な病気を理由に約50年ぶりの海に入った方。人生初めての海を心待ちにしていた方などがいた。1人は海に来てから気分が変わり海に入ることを固辞した方もいたが、そういった方も「なにができるかな？」を考え即席の海水桶をつくり手足にかける体験をたのしんだ。海に入るだけが親しむ方法ではなく、普段はできないことを提供することで一人一人が海を親しむことに繋がっていた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



屋久島での2回目の開催は地元の小学校へ通っている重複障害をもっている女の子とその家族と一緒に海を楽しんだ。より安全に開催できる遠浅の砂浜をもとめ、1回目とは場所を変えての開催となった。

台風10号の影響を受け、木っ端や傾斜が激しかった場所を整地し、体験会を開催することができた。

普段は両親が交代で3人の子どもと海で遊んでいたが、この日はサポーターとともに家族みんなと一緒に海に入り、ヒippoやウォーターウィールなどの道具も活用し、思う存分に海を楽しんでいる姿があった。また、女の子が通う学校のクラスメイトも遊びに来てくれ友達と一緒に海遊びをすることができた。

海の中で家族写真を撮り、声を上げながら笑う姿にサポーターも笑顔があふれる場となった。この活動を通して、普段できなかったことや諦めていたことでも、誰かが一緒に活動し、また専用の道具があることで一緒に安全に海を楽しむことができるということを知ってもらうきっかけに繋がった。

### 【参加者の声】

- 回答内容A 泳ぐのは初めての経験だったけどとても楽しかった。
- 回答内容B 個性を持った方、健常者の方が一緒になって楽しむ機会を作っている海という場所がこれからも綺麗であり続けて欲しいと感じた。
- 回答内容C 障がいのある無しに関係なく、みんなが楽しめるものをみんなで楽しむ、そんな当たり前の世界が広がるといいなあという希望を持った。

## 4. 海のユニバーサル活動報告会

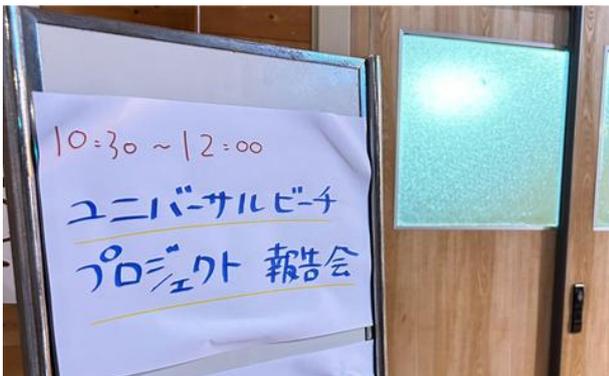
- 【開催日時】 ①2025年1月26日(日) 屋久島  
②2025年2月1日～2025年3月19日(屋久島報告展示)  
③2025年2月9日(日) 重富  
④2025年2月25日～2025年3月31日(重富報告展示)

- 【開催場所】 ①屋久杉自然館別館  
②うみがめ館・屋久島町立安房小学校  
③・④重富海岸自然ふれあい館なぎさミュージアム

【参加者数】 ①24人 ②421人 ③21人 ④1123人

### 【活動内容・目的】

- 2024年度のユニバーサルビーチの活動をいろいろな方へ知ってもらう
- ユニバーサルな海での体験活動の「意味」を知ってもらうことで海の学びの必要性を考えてもらうきっかけにする





初めての屋久島でのユニバーサルビーチの活動を紹介する報告会を開催。  
 体験会の参加者やサポーターとして関わった方の感想共有や、夏に使用した実際の道具の体験もおこなった。

また、体験会では初めての水陸両用車いすで乗ることに抵抗を感じていた女の子が、2回目となり少し慣れたのか、乗って移動ができていた。

日常生活で海に親しむ習慣がある島民だからこそ、海が特別ではなくいつでも入れるものではあるが、海水浴場としての整備にユニバーサルの視点が入っておらず、車いすでは入れる海がなかなかないなどの課題もみえることができた。

また、持続的に活動をおこなう意味と意義（活動費や道具の維持など）をあらためてみんなで考える場ともなった。

屋久島の展示は2カ所でおこない、海での活動を知ってもらった。





重富海岸では2年目のユニバーサルビーチの活動報告会をおこなった。

夏以降もユニバーサルビーチの問い合わせが多く、この日は体験者やサポーターのみならず県外から取り組みを知るために訪れた方や、来年度の夏に海に入りたいという方、また県内の地元の海で開催できないかと相談に来た方などいろんな立場の方が参加していた。

また、夏の参加者から感想を共有してもらった。海岸には、夏に使用したビーチマットや更衣室などを設置し体験会のイメージを共有することができた。

海は諦める場所だったところが、行ける場所、楽しめる場所になることで興味関心を持つ人が増えて行っていることを、1年目以上に実感できた。

屋久島の展示は2カ所でおこない、ユニバーサルな海の学びに関する活動を多くの人に知ってもらう機会を設定した。

### 【参加者の声】

- 回答内容 A 参加された方の楽しかったという声がきけて感動した。
- 回答内容 B 海に入ったところがない人が海に入ることの重要性に気付いた。
- 回答内容 C 皆様に移動の自由と楽しさを学んで頂く姿に感動しました。
- 回答内容 D 様々な環境（砂、満ち引き、干潟）の海があることを感じた。

## 【事業全体のまとめ】

- ・障害があるという理由で、海に来られなかった人やその家族に「海」に親しんでもらうことができた。特に報告会で、体験者の一人が話してくれた「重度障害のある僕なんかでも海に入れて最高だった。みんなにも紹介したい」という感想からも、障害があるというだけで、これまで海での体験自体をあきらめざるを得なかった現状を知ることになった。
- ・重富だけでなく昨年度構築した「環境教育の要素を取り入れたユニバーサルな体験活動プログラム」を離島、屋久島にも普及させ、「利用」と「保全」の考え方につなげた活動として行うことができた。
- ・ユニバーサルな海の学びの場（ユニバーサルビーチ）を重富以外でも提供する出張のやり方を構築することができた。
- ・重富では参加者のみならず、サポーターなどとして関わりたいという人を増やすことができた。
- ・どのような人も体験できる海のプログラムが離島でも構築されることで、子どもだけでなく大人も海を諦め選択肢にも入らなかった人たちに海に触れ合う機会をつくることができた。
- ・ユニバーサルな体験活動を行う「意味」や「意義」を理解した人が、重富以外の海岸に育ったことで、将来的にユニバーサルな体験活動から海の学びについて考える地域の拠点が増え、県内にどんな人でも体験活動ができる拠点が増えていく一歩となった。
- ・活動報告のパネル展示により、海を親しめない人がいること、水陸両用車いすなどの道具、なによりどんな人でも海に入れる取り組みがあることを多くの人に知ってもらうことができた。

## 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. HUB&LABO Yakushima	屋久島開催現地コーディネーター
2. 屋久島ライフセービングクラブ	屋久島開催サポーター協力
3. NPO 法人須磨ユニバーサルビーチプロジェクト	9/6 重富開催時サポート協力
4. 合同会社 UD ラボ	活動の普及 参加者募集協力
5. NPO 法人屋久島ウミガメ館	パネル展示協力
6. 屋久島町立安房小学校	パネル展示協力

## 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. ラジオ あいらびゅーFM	「ばくふら」（くすの木自然館 浜本麦 担当 ラジオ 番組 ）計 4 回
2. ラジオ あいらびゅーFM	「子育てラボ」（くすの木自然館代表理事 浜本麦 UD 担当石神愛梨 出演ラジオ 番組 ）計 4 回
3. フレンズ FM	「みんなで UB 会議」くすの木自然館 UD 担当石神愛梨 出演
4. MBC ラジオ「RADIO BURN+」	くすの木自然館 UD 担当石神愛梨 出演
5. ・MBC ラジオ	「錦江湾のなぎさから」（くすの木自然館 スタッフ出演 ラジオ番組 ）計 8 回
6. 鹿児島読売テレビ	（2024 年 8 月 20 日）放送

7. MCT 南九州ケーブルテレビネット	(2024年9月21日、9月22日、9月23日 9月24日) 放送 計4回
8. KTS 鹿児島テレビ	「かごnew」(2024年9月24日) 放送